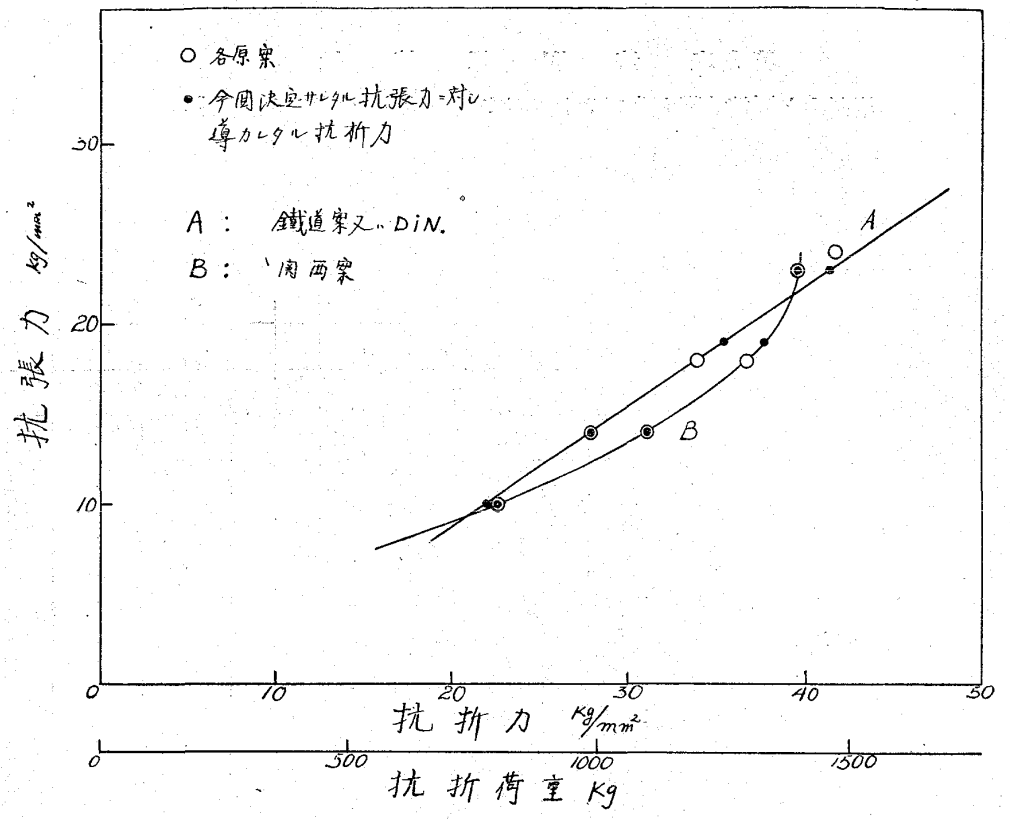
關西鑄物懇話會案及び鐵道省案の抗張力と抗折力の關係圖

（鐵　　道　　省）



昭和三年十月二十八日大阪市に於ける鑄鐵規格統一委員會議事進行程度抜萃（齋藤委員長）

1. 試驗方法の種類—鑄鐵鑄物には抗折試驗を行ふ、特に必要なるものには抗張試驗を行ふ……決定
2. 抗折試驗片の數—2本の內1本良ければ合格とす。若し然らざる時は更に1本に付て之を行ふ……決定
3. 黒皮或は仕上げ—黒皮　賛成　8人／仕上　〃　11人……未決定
4. 試驗片の斷面の形—角　賛成　11人／丸　〃　9人……未決定
5. 試驗片の大さ—丸の場には黒皮或は仕上げの如何に係らず直徑 30mm, 全長 350mm, スパン 300mm, 角の場合には 25mm, 角全長 350mm, スパン 300mm……決　定
6. 仕上げシロ—35mm, 角の場合には必らず仕上げる事……決　定
7. 鑄　造　法—取瓶試料の時は縦込めとし鑄物に附着の時は任意とす……決　定
8. 枕　の　形—枕の直徑 20mm 以下なることを許さず（井口氏保留）……
9. 撓みの測定法—研究すること……
10. 抗折試驗なる名稱の適否—考へ置くこと……